

薬局薬剤師にも「チーム医療」経験を 大分大病院、全国初の「教育センター」で公募

2025/9/1 04:50



薬剤師教育センターを設置した大分大医学部付属病院

大分大医学部付属病院（大分県由布市）が、地域の薬剤師確保や育成に取り組む「薬剤師教育センター」を設け、活動の一環として近く、薬局薬剤師向けに病院のチーム医療を経験できる研修を開始する。センター長の伊東弘樹薬剤部長・教授は、病院内にセンターをつくる事例は「全国初」と説明。大分には薬学部がないことから、病院や薬局を問わず「地域全体の薬剤師の教育体制の充実につなげたい」と抱負を語った。

2月に設置したセンターの原資は、2024年度診療報酬改定で新設された薬剤業務向上加算。同加算は、地域の医療機関への出向体制や、卒業直後の薬剤師への研修体制などを評価するものだ。

伊東氏は「加算の収入を全て病院の赤字補填に使っているところがあるといううわさを多く聞くが、当院ではそれをしたくなかった」と強調。増収分を活用し、薬剤師教育の核となるセンターを設けることが、薬学部のない県にある大学病院として必要だと経営陣に提案し、専属の教員ポストを新たに設けることも含めて了承された。伊東氏は「正直、センター設置は簡単なことではなかった」と明かし、「出向して加算が付いた、だけで終わらせたくない。個人的には画期的な施策と思っている」と振り返る。

同センターは、「高度救命救急センター」や「生殖医療センター」などと並び、特殊診療施設の一つとして位置付けられている。センターの機能を生かし、4月から同加算の算定を開始。7月には専属教員ポストとして吉川直樹氏が副センター長に就き、本格的に稼働している。

●3コースの研修を用意、薬剤師の復職支援も

センターは10月から、薬局薬剤師向けの3つの研修コースの受講者を公募する予定だ。

「薬物治療参画コース」では、急性期医療の薬物治療や病棟カンファレンスへの参加など、医師や看護師らとの距離が近い環境で薬物療法に関わってもらおう。「技術習得コース」では、TPN無菌調製や院内製剤、血中薬物濃度測定などの手技を経験。「研究支援コース」は、薬局業務で生じた疑問や解決できない課題を研究し、論文執筆を目指す。いずれも薬剤師の経験年数や、本人の意向などに応じて柔軟に対応する。



センターは、地域の薬剤師の復職支援にも取り組む。7月からは免許取得者を対象とした「復職支援プログラム」の受講者の募集を開始した。病院や薬局の勤務歴は問わず、支援の内容や期間、時間は相談して決める。伊東氏は、「復職希望には主に病院希望と薬局希望の2パターンある。個人のニーズに応じたプログラムを組み立てる」と話している。（小泉 壮登）